

# P\_05 リサーチ・アドミニストレーション組織が成長するための京都大学URA 育成カリキュラム

天野絵里子、橋爪寛（京都大学 学術研究支援室）

【背景】 URAは新しい職種であり、共通の知識体系が十分に確立されているとはいえない。  
 KURAの人材の多様性を強みを組織で効果的に活用するためには、共通の基盤的知識が欠かせない。  
 【目的】 リサーチ・アドミニストレーションについて幅広い知識と優れた技術を有するURAを育成すること。

## 達成目標

競争的資金申請書の作成支援ができるようになる

### 科目

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. URA業務         | 8. 特許と大学の知的財産活動 |
| 2. 政策・競争的資金制度    | 9. 産官学連携        |
| 3. インタビュー        | 10. 情報探索基礎      |
| 4. 研究プロジェクト      | 11. 契約          |
| 5. 研究費           | 12. 申請書の書き方     |
| 6. 広報・アウトリーチ     | 13. ヒアリング審査対策   |
| 7. 研究倫理・コンプライアンス | 14. 演習+演習解説     |

## 達成目標

研究支援プログラムの企画書が作成できるようになる

### 科目(案)

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. マインドセット   | 4. プログラムの企画・計画 |
| 2. 問題発見      | 5. プログラムの実施    |
| 3. 問題解決方法の創出 | 6. プログラムの評価    |

共通の高度な知識・技能と専門性を兼ね備えた大学の経営人材を育成

URAの業務、適正に応じて専門領域の知識・技能を高度化

レベル3 専門領域

レベル2 支援プログラムの企画・運営 平成28年度より試行・実施

レベル1 競争的資金申請支援 平成25年度より実施

各URAが講義やワークショップで知識・技能を獲得

各種の支援プログラムをチームワークで実践

京都大学URA育成カリキュラム × On the Job Training (OJT) = KURA



### リサーチアドミニストレーションの知識基盤を確立 全員が受講

修了者数	
平成25年度	22名
平成26年度	13名
平成27年度	10名

### 知識の好循環で組織が成長 講師を内部で育成

- ・教えることで学べる
- ・京大の環境を内容に反映できる
- ・お互いの専門性を活かす

### 京都大学の研究環境を踏まえた独自のテキスト

レベル1の講義14本は動画でオンデマンド視聴が可能

### URAの高度化と定着に貢献 キャリアパスともリンク

修了証を発行

#### 受講者の声

- URAにとって必須の知識を学べた
- 実践的で今すぐにも業務の参考になる
- 他大学のURAにも役に立つかも